（別紙4）　　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんどの里（なごみユニット）		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和7年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和7年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念を基に、利用者の方の生活環境を把握し、個々の能力と意思を尊重し家庭的な雰囲気の中で役割を持ち張り合いのある生活の提供に努めている。その時期にそった行事を生活の中に取り入れたり、畑で採れた物を食事に使用するなど行っている。メリハリのある生活を送って頂けるよう身体を動かしたり、脳トレをして脳の機能に刺激を与える働きかけも取り入れている。1人ひとりの生活歴やできる事を把握して、本人に出来る事をしてもらい、一緒に生活して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、基本理念の家庭的な雰囲気と地域住民との交流を行ないながら生活して行く事を念頭に置き、年度初め、中間、月間目標に掲げ、理念に沿ったケアが実践できるよう努めておられます。田園風景の広がる立地で、利用者が住み慣れた地域と似た環境にあります。ホームの畑で収穫された野菜を使った献立も提供されたり、手作りおやつ、行事食、特別食の提供も行われ食が楽しめるよう工夫されています。コロナ5類移行に伴い従来からの交流のあった保育園や児童クラブ、地域の夏祭りやとんどさんにも参加する機会がありました。現在は隣接する小規模多機能の看護師を中心に健康管理が行われており、協力医との連携が図られ、利用者、家族の安心につながっています。今年度よりリフトを導入され、利用者はゆったりと浴槽に入り入浴を楽しんで頂くことができ、職員の負担軽減、生産性の向上につながっています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念を事務所に貼り、目の届く所に置いている。毎月の目標をあげている。それに基づき住み慣れた地域、生活により近い環境の中で、ゆったりと日々過ごして頂けるように行動している。	職員は基本理念を理解され、理念の実現に向け、振り返りの時間を持たれ、ケアについての意識付けも行っておられます。年度初めや中間でも月間目標に掲げ理念に沿ったケアの実践につなげておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の案内が来たら参加させて頂いている。。保育園との交流は以前の様に色々な形で行われている。地域の方とすれ違う時にはきちんと挨拶を行っている。	コロナ5類移行に伴い、従来かおこなわれていた地域のとの関わりが再開されてきました。法人内の保育園、児童クラブとの交流が行われました。地域の夏祭り、とんどさんにも久しぶりに参加できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加した際には、交流を図ることでどの様な援助をしているのかを見てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行われ、定期的に報告、意見交換しサービス向上に努めている。	2ヶ月に1度開催されており、ホームの現状報告が行われ、意見交換が行われ、ホームの運営に活かされています。	昼食試食会や地域との災害時の訓練等に参加した頂けることも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方には定期的に訪問を受けている。介護相談員の方には、その日の気づき等を報告して頂いている。市の担当者とも、管理者を中心に連絡を取っている。	管理者が出雲市市福祉保健課に運営推進会議の議事録を毎回提出され、顔馴染みになるよう努めておられます。介護相談員の方が訪問され、入居者の方から聞き取った内容や気付きを書面で報告してもらわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていないか、3ヶ月に1度委員会を行い検討し改善などを行っている。利用者の安全確保の為、家族に説明し了解を得てセンサーマットの使用されている方もいる。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1度行われおり、全職員が理解するよう取組んでおられます。ユニット会議でも意見交換し全員で身体拘束について話し合っておられます。日中の玄関の施錠等は行われていません。居室での転倒防止の為、家族に了解を取りセンサー等の設置が行われています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても3ヶ月に1度委員会を行っている。毎月のユニット会議でも検討事例があれば話し合い、職員間でケアの方法について検討している。	虐待防止委員会も3ヶ月に1度行なわれています。ユニット会議等でも日常的に共通の認識が出来るよう努めておられます。職員一人ひとりが高齢者虐待の正しい知識を持ち日々ケアを実践出来るよう心掛けておられます。職員同士でケア対する悩みも相談されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会も、外部機関開催研修も少なく中々活用が難しい。現在は利用者の中にこの関連法や制度を利用される方もいない為活用していない。以前は成年後見人制度を使用しておられる方は居た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に重要事項の説明や施設の見学を行っている。随時質問を受けて丁寧に対応している。入居時にも再度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日頃の様子を伝え、家族の意見を直接伺ったりし、全職員で情報を共有し、日々のケアに反映出来るようにしている。	利用者には日々の会話のから意見・要望を聞かれています。家族へは面会時、電話連絡やケアプラン変更時に意見・要望を伺うようにしておられます。毎月の手紙等で利用者の状況を報告し、意見が出しやすいように心掛けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議に参加してもらおうとしているが日程が合わず、時々しか参加できていない。参加された時には直接話を聞いて頂ている。	ユニットリーダーを中心に運営に関するユニット会議が開かれており、職員の意見・提案を取り入れる機会が設けられています。管理者が参加できない場合には報告を受けておられます。	ユニットリーダーと管理者の間の定期的な会議の開催に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法令の改正に合わせて就業規則や給与規定、その他規則の改定作成をしている。職員の待遇が良くなるように考えて頂いている。	管理者は,職員の希望と負担を考慮した勤務を組み、法令の改正に合わせ就業規則や給与規定等、やりがいに繋がるよう努めておられます。職員不足ではありますが、時間外手当でカバーされています。人員確保のために外国人技能実習生の受入れも行われ、今年度リフトを購入し入浴の際の職員の負担軽減が図られました。	職員の頑張りに対して評価してもらえる仕組みの導入も良いと思います。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を今年も取り入れていた。(施設内研修は参加する事が難しい職員が多い為)外部の研修には参加していた。オンデマンドでの研修にて、個々にあった研修を受けている。	職員個々の状況に応じた研修に参加されており、現在は外部研修にも参加されることと並行してzoom等も利用し研修の機会が設けられています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加に於いて、他施設の人と話す機会は出来るようになっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接の段階で要望や思いなど耳を傾けている。管理者も事前訪問等行い、意向を確認し本人の話や家族との会話に気をつけて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時困っていること等聞いている。入居開始前よりどのような問題を抱えられているのかを把握し、要望や思いなどあれば言いやすい関係つくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じく、その方に必要なサービスを検討している。今、入居の時期でない等であれば、他のサービスを案内したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒になって食事作りをしたり、作業をしたりと、その方に合った援助を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘の際は個人の居室でゆっくりお話をして頂いたり、電話をしたい時には話される機会を大事にしている。家族の協力が必要な時にはお願いしたりと、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の常時受け入れや、散髪等家族の要望があれは、自由に行けるような環境に努めている。	本人の希望や家族の希望を聞き可能な限り外出や外泊、面会を支援し、コロナ禍で中止となっていた事がほぼ従来の状況に戻っています。電話の取り次ぎや面会は居室やリビングで自由に一緒に過ごしておられます。	外出が難しい時も手紙や写真により馴染みの方との関係継続が行われていますので、昔話から回想法につなげられると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入る必要があったら入ったり、利用者間でもなじみの関係が出来たりしている。個々を尊重しつつ、お互いが関わり支えて行けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談や支援する事はあると思う。必要に応じて行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の思いをくみ取る様に行っている。会話の中から聞き出したり、表情から理解する様に努めている。	本人や家族から話を聴き観察し、表情からも理解するよう努めておられます。自分本位にならないよう必ず利用者の立場に立って考え認知症を理解し、利用者の感情に寄り添う事が出来るよう、職員間で相談・情報交換を行ない、本人らしい生活が出来るように努めておられます。	利用者の思いや意向から本人の生きがいや長生きの目標につなげている様にしていかれると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子や、ご家族本人との会話から聞き出す様に行っている。その後も見返しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンでも話し合い、休息時間や過ごし方を検討している。日々の生活の中で現状把握に努め、職員間で情報を共有し、個々の意向に近づけるよう行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のケアカンファレンスで見直しを行い、課題があれば検討している。より良い生活が送れるように考慮している。	日々のコミュニケーションで本人の気持ち,希望を確認する様に努め、家族の意向も聞き取り、半年に1度ケアプランンの見直しが行われています。部屋担当が今の課題からプランを見ながら素案作りをされ、ケアマネとリーダーで話し合い原案、他の職員に確認、意見をもらい本案を決定されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中で変わった事や気になることがあったらタブレットに記録を残すようにしている。必要な情報が一目で解るようになっており情報の共有が速やかに行われる。	体温や血圧の変動が一目で分かる様にタブレットを活用し、24時間シートも使用し確認されており、日々の状態も記録し職員間で共有が行われています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の状態に合わせて、その方に合ったサービスが提供出来るようにしている。家族の要望で病院への送迎が難しい所などは当施設で対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人に必要なものが何かを考慮しながら支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医をどこにするのか、入居後に確認を取っている。かかりつけ医にも細目に連絡を取り、その方に合った援助を行っている。	入居時に主治医の希望を確認し在宅時の医療が継続できるよう行なわれています。ホームの協力医の連携についても説明し変更を希望される方もあります。内科以外の受診は家族に依頼されています。緊急時は速やかに電話で報告し納得と安心を得るよう行なわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化で気になる点があったら看護師に報告、相談し指示や判断をもらっている。先生への連絡が必要かの意見ももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を病院に提出し、退院前にはカンファレンスを開いて頂いたりと情報提供して頂き、退院後のケアに繋げている。その他解らない事があれば電話で確認を行っている。	入院時は病院の地域連携室のソーシャルワーカーと連携を図り、情報提供を行ない、早期退院を目指しておられます。退院カンファレンスも行ない退院後の生活の注意点等伺われています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医が考えた方がいいと言われた段階からご家族の思いを聞くようにしていた。その後状態変化がある度細目に家族に報告するように努めている。	契約時に重度化した場合の対応について文書で説明し同意を得ておられます。終末期の在り方について確認するようにされています。看取りを希望される場合にはターミナルケアも行われていますが、医療行為が多くなった場合家族が病院、施設へ移行も説明されます。必要に応じてかかりつけ医から説明を受ける場を調整しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で行っている。事故報告書やヒヤリハット報告書などユニット会議でも話し合い事故防止に繋げている。全員ではないが研修に順次参加してりもしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練や、消化訓練、災害時避難訓練も行っている。	火災・地震等緊急事態発生時の連絡網を作り、会社より近い人から協力体制を取られています。法定で定められた年2回の避難訓練でも災害対策の研修も行う事で実践力を身に付けておられます。BCP計画も策定されており、各ホームごとに備蓄品も準備されています。施設内には4部署の福祉施設があり法人全体の連絡・協力体制がある為,近隣の協力を得る可能性は少ないなっています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議で定期的に挙げ言葉使いには気をつけている。トイレ誘導時、入浴時など配慮した声掛けを常に意識している。何か起こった場合は見直すようにしている。	排泄・入浴マニュアルにプライバシー保護について記載されており、職員各自その大切さを自覚し,職員同士で注意しあう事が出来る様に努めておられます。利用者には優しく思いやりを持った丁寧な言葉遣いを心掛け、馴れ親しさの間で悩む場面も見られますが、尊厳保持を優先した対応に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には希望を聞くように行っている。声掛けをしたり難しい方には選択肢を設け、選びやすくしている。個々の意向や自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースで過ごしてもらえるように援助の仕方を考慮している。体調面の見るよう心掛け、負担のないよう過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から使用している物は継続している。(カチューシャや時計など)季節毎の衣替えや訪問理容などを利用し、髪型もその方に合ったものに出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事つくりをするようにしている。食事作りでなくても、お菓子作りを一緒にしたり、干し大根などしてこられたことをしている。好みも聞きながら調理し食べて頂くことも行っている。	現在、外注で業者に主菜を注文されており、御飯・汁物・副菜はホームで用意されています。個人の好み,体調,アレルギーを考慮し、体調に合わせて刻みやトロミを付けて対応されています。手作りのおやつも作られており、喜ばれる姿が見えます。下膳など出来る事は行っておられます。行事などは特別食やおやつを用意されています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は体重や血液検査の結果を見ながら決めている。水分量を飲んでおられるか見ながらしている。体重の変化や、水分補給の観察が必要な方も記録に残し全員で支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアはしている。個々に合ったブラシやモアブラシ等使用し、夜間帯には義歯の方の洗浄を行っている。	全員に口腔ケアは行われており、状況に応じて声掛けや支援が行われています。義歯は夜間は預かれ洗浄液に入れ清潔保持をされています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて誘導時間を変えたり、パットの種類を変えたりしている。	トイレでの排泄を基本とされており、最期までトイレで排泄がして頂けるよう支援されています。利用者の言葉や行動を察知したり、タブレットを利用し個々の排泄パターンの把握に努め、個々の状況に合わせた声掛け、誘導、介助が行われています。夜間はも個々人の状況を把握しながら声掛けを行っておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面で、牛乳や食物繊維の物を食べて頂いたり、運動量が減った方には、運動（歩行な等）を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室の温度管理や福祉用具の活用し安全にも配慮している。夜間入浴がいい方には夜入浴して頂いている。リフトも導入され、無理なく安全に入浴出来るようにもなった。	週2回以上を目安として、毎日対応しておられます。人員配置や安全性を考慮しつつ午前中、午後に入浴して頂いておられます。夕食後に入浴を希望される方もあります。リフトが導入され、入浴が難しい方もゆっくりと浴槽に入って頂けるようなりました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズム把握して（今までの生活習慣など）休んで頂いている。昼夜逆転しない様にも心掛け、リビングで過ごして頂く事も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更がある場合には特に注意を払っている。服薬後の状態変化なども記録に残し、職員間で情報共有に努めている。	一人ひとりのカルテにお薬手帳の内容を貼り付け、職員の共通理解が図られています。基本は薬局から配達され、家族と受診された方は持って帰ってこられます。薬は職員２人で確認され、服薬されています。薬の変更時には特に注意を払い、状態変化があれば主治医に連絡され指示を仰がれます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人が出来る事を行って頂く様努めている。時間を有意義に過ごして頂けるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍から明けたが、以前の様に出掛けられる方は少ない。希望があれば出かける事は可能な事は伝えている。	体調や天候を考慮し散歩、買い物、美容院等に個別に出掛けておられましたが、職員体制や気候により日常的な外出は難しい状況です。ホームの周りの散歩や敷地内の畑での収穫等が行われています。春になればお花見のドライブレクも行われる予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したい方は、殆どおられないが、一部の方は少しだが持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等書いて頂いている。ご家族が遠方の方には電話をされる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画に季節の物を飾るようにしている。掃除も丁寧に行うようにしている。温度管理や臭いなどにも気をつけ快適に過ごして頂けるよう努めている。	温度、湿度管理、換気にも気を付け、リビングには加湿器も置かれています。常に清潔と明るさ、季節感を感じられるよう心がけておられます。壁には利用者の作品を貼り、絵など季節の物を展示されています。時にはオルゴールの曲、童謡などを流すことで落ち着いた空間作りをされたり、歌を聞きながら皆さん楽しく穏やかにリビングで過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにおいて好きに過ごさるようにしている。昼食後はソファーでゆっくり過ごせる方もあり。テーブル席では気の合った利用者同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族で使用していた物を持ってきても良い事を伝えている。ご家族が花を持ってこられたり、ぬいぐるみを持ってこられたりしている。居室には家族の写真やメッセージカードなども飾っている。	居室は動かれるのに危険が無い動きやすい動線になるようベッドの位置やエアコンの風向きにも配慮されています。隣接する小規模多機能施設の理学療法士に相談されることもあります。テレビ、家族の写真、小物を飾る等様々で個々の好みを尊重し居心地良い居室になるようにしておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が歩かれる所や極力床には物を置かないよう努めている。移動されるときも目配りし、転倒される事が内容に気をつけている。		